

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016		
法人名	医療法人社団一就会		
事業所名	グループホーム湯と里		
所在地	静岡県伊豆の国市長岡953-1		
自己評価作成日	平成 30年 2月 20日	評価結果市町村受理日	平成 30年 5月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院という事で、体調に不安があるときには昼夜問わずに診察や処置を受ける事が可能である。月曜日から土曜日の朝は毎日院長が様子を見に来ているため、入居者様やご家族だけではなく職員も心強く感じている。また、医師・看護師・リハビリ各担当者・検査技師・放射線技師・栄養士の専門的助言を随時受ける事も可能である。病院や小規模多機能ホーム、姉妹法人のイベントに参加できる状態であり、季節のイベントを多く楽しみ感じられる。入浴は温泉を使用している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosvoCd=2290800016-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30年	3月	31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の経営する、温泉地の施設の施設で、医師もまめに訪問してくれ、医療連携が充実しているため、利用者、家族、職員が安心して生活できる。リハビリの対応も柔軟に迅速になされている。入浴も温泉を引いている。利用者は地域のイベントや法人のお祭りに参加して日常生活を楽しんでいる。ここ2年間で利用者の入れ替えがあり、介護度が改善されたため、外出も全員で出かけられる。利用者はリビングで歌やゲームをみんなでやり、生活にメリハリがつくように職員が支援し、明るく穏やかに思い思いに生活されている。職員は希望休や勤務中の休憩もしっかり取れ、腰痛の時には負担がかからない業務にする等の配慮がなされ、働きやすい環境である。また、職員は一年に1~2回の外部研修に参加ができるように調整され、参加した内容は職員会議で報告してスキルアップを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を入りに掲示し、職員だけではなくご家族や訪問者にも見えるようにしている。また、会議の際に日々の変化する入居者様の体調面等を居室担当が報告し、職員全員で対応方法を考えるようにしている。	理念は開設当初に作られたもので、玄関入口、事務所に掲示し、職員や家族が見えるようにしている。職員と管理者は日常の中で理念を理解し、実践するように努めている。月1回の職員会議で、利用者の様子を報告しあい、理念の再確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の方々や近隣の施設より、情報を頂き、お祭りなどに参加している。また、法人主催の健康祭りに地元のシャガリの団体などが出演したり、近隣の方々が訪れたりしている。地元の中学校の職場体験の受け入れも行っている。	地域の中学校の職場体験を継続して受け入れ、日頃はカフェに出かけたり、地区のお祭りに参加したりとできる範囲で交流している。また、医療法人の祭りは地域の行事の一つとなっていて、多くの人が訪れるので利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方だけではなく、市内の高齢者の方にて会う機会があると、介護についての相談を受けたり、気軽に立ち寄り頂けるように話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容については、議事録に必ず職員全員目を通して。また、順番で書記として参加している。必要に応じて、再度話をしたり、運営推進会議で出された意見について話し合いをしている。	市、包括支援センター職員や家族の参加が毎回あり、市内のグループホームの職員も参加している。介護で家族が知りたいことをアンケートにとり、会議でお伝えしている。地域住民や区長に参加してもらえるように会議の知らせや議事録を届けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の実情を伝えたり、情報提供をして頂いている。介護サービスについて市町村から助言を受ける場合もある。また、慰問ボランティアの紹介も市より受けている。	運営推進会議に参加してもらった時に事業所の実情を伝え、介護保険法の変更等で不明な所を詳しく聞いたりしている。また、市より認知症初期集中支援チームを立ち上げる時には参加要請を受け、月1回会合に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・通用口は開放している。徘徊や転倒の危険がある方には、可能な限り寄り添うようにしている。抑制的な発言は慎むように職員に指導している。	職員は全員、身体拘束をしないケアについて理解していて、会議で対応を話し合う等研修をしている。また、外部研修にも職員が参加している。エレベーターや玄関は常に開放している。理療者の行動には職員が注意をし、寄り添うように努めている。	

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように常に職員全員で連携をとり、教育し、注意している。日頃の職員会議等で「虐待」にあたる行動・行為・言動などを周知し、話し合う機会をもうけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が最近までいらっしゃった。経験をふまえ、必要な方には情報を提供し、積極的に活用を支援していきたい。研修で「成年後見制度」について学び、職員会議にて研修内容を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、不安や疑問に耳を傾けており、何でも聴いて頂くように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を入りに設置している。面会時には、必ず、話をうかがうようにしており、職員全員で解決すべきところは職員会議の場で話し合い、運営に反映している。	家族の面会時に職員が話を聞き、業務日誌と個人ケア日誌に話の内容を記録し、職員全員で情報を共有している。家族会の必要性を感じていて、開催に向けて検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞いたり、相談をしたりしている。毎月の職員会議でも意見交換を行い改善できる事は受け入れている。	管理者、主任とも日頃から介護スタッフとして現場に入っているため、常に職員と話す機会がある。会議でも利用者の気になる様子について話し合いがなされていて、職員から解決策の提案が出るため対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明し、職員への経営に関する意識付けを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	呼びかけて研修の参加を促し、研修後は報告書を作成し、会議で報告し、知識の共有を図っている。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹施設との交流する機会をつくり、利用者とともに行事に参加させていただいている。地域や姉妹法人の研修に参加しネットワークづくりを行うとともにサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を十分に傾聴し、受け止める姿勢で接し安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は、真剣に受け止め、一つ一つ丁寧に話し合い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人や家族の思い、状況を確認し改善が図れるようにしている。入居に至らない場合は、他のサービスの紹介を行うなど、情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは参加を働きかけ、一緒にやって頂いた事に対して感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり、ご本人の想いを伝え、ご家族の想いも確認しながら、一緒に支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月の帰省や、居室で一緒に過ごしていたくなどしている。また、馴染みの方の訪問も積極的に受け入れているが、年々高齢になり難しくなっている。	面会に来た人には居室で気兼ねなく過ごしてもらえるように支援している。正月の帰省に向けて体調に気を使っている。また、隣の病院に友人や知人が受診やお見舞いに来た時にはこちらにも寄ってもらえるように快く受け入れている。	

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良い関係でいられるように、常に気を配っている。話題提供をしたり、仲介役を行いコミュニケーションが図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のご家族に会う機会があるとその後の様子をうかがい相談を傾聴している。更新書類の申請などにはサービス終了後にも携わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の介護度の幅が広いので、会話や表情からご本人の希望や意向を把握するように努めている。それでも、困難な場合はご本人の安全を考慮して検討している。	職員は利用者の家族との会話や、表情やしぐさから、思いをくみとるようにしている。会話が困難な利用者には、その方のまばたき一つも見逃さないように寄り添って、思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や日常の会話からも、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。時には家族にうかがっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を把握したうえで、個々の生活リズムを理解するようにしている。また、体調や気分など日々様子観察を行い、職員間で情報を共有しケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室の担当職員を中心に、ご本人やご家族の思いや意見を日頃の関わりの中で伺い、反映させるようにしている。リハビリについては、隣接する病院の理学療法士・作業療法士と情報交換を行い、日常生活で行えるメニューを作成していただき、実践している	居室担当職員を中心にモニタリング、カンファレンスを行い介護計画書を作成している。気になる点は協力医や看護師とも相談し、利用者の病歴や体調をみて、リハビリを受けることを進めたり、柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫、時に注意すべき点などは業務日誌や個人ケースに記録し情報を共有している。また、それを介護計画に活かすようにしている。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況に応じて通院などの支援を臨機応変に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の新聞や市の広報などから情報を得て活用している。また、近隣からの情報を元に季節折々の催し物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、継続して受診できるように支援しているが、隣接する病院にある診療科をご家族とご本人の希望で主治医にするケースが多い。	隣の病院の医師、看護師が月曜日から土曜日の午前中に利用者の様子を見に来てくれ、相談もできる。家族は医療面で満足している。歯科は訪問歯科を取り入れている。病院にない科のみ家族が対応して他の病院に受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルチェック、日々の動きや表情などに変化がないか観察し、異常の早期発見に努めている。心配な時は、病院の看護師に相談し、医師に繋げることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人の支援に必要な情報を提供している。入院中は、ご家族・相談員より様子などをうかがっている。また、日頃より協力病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人・家族と話し合いを行い、意向に沿って終末期を迎えている。ムンテラには必ず立ち合うようにしている。異変の早期発見に努め、家族と今後について話している。グループホーム内での看取りも実施している。	入居の際に重度化した場合、終末期の対応について説明をし、同意をとっている。終末期の対応については医師の説明を受け、事業所と家族と話し合いを行い方針を決定している。家族がホームでの看取りを希望される場合は受け入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応できるようにマニュアルを整備しており、分かりやすい位置に掲示している。状況に応じて動けるようにしている。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、同一建物に併設する小規模多機能ホームと合同で防災訓練を行っている。歩行が困難な方が増えてきたので、担架を購入した。	年に2回、併設の小規模多機能ホームと合同で夜間想定、地震、火事想定で訓練を行い、消防署にも報告をしている。地域の防災訓練には職員が参加している。	前回指摘されたマニュアルの整備と昨年度市の防災課からの施設建物北側の裏山の土砂崩れの対応が未完成とのこと、対応をして下さい。地域とのつながりがあるので、防災の連携も期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いから言葉かけや対応に失礼のないように気を付けている。入居者様の対応で気づいた事があれば、個人的に注意するのではなく、職員全員で共有し解決するために職員会議で話し合いをしている。	日頃から言葉かけや声のトーン、対応には人格を尊重するように注意している。プライバシーにも配慮している。問題がある時には個別に注意することもあるが、全員のスキルアップのために会議で取り上げ話しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず確認している。答えやすく選びやすいように問いかけを心掛けている。確認が難しい方は、表情を観察するが、生活歴を調べたり、ご家族に相談する場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の活動マニュアルがあるが、その日の状況に応じて、柔軟に対応している。一人ひとりのペースを大切にするために、常に声掛けをしながら見守りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回程度のペースで訪問美容院を依頼している。利用者から声があがれば対応するようにしている。ご本人の好みの衣類をご家族が準備して下さる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する病院で調理されている。片づけなどできる事は行っていただいている。週一回は、目先を変える意味でお弁当にしている。外食も、希望を聞いて出かけている。	食事は隣の病院の厨房で栄養管理され、調理されている。ご飯は台所で炊き、配膳はテーブルでされる。茶碗、はしは自分の物を使用している。木曜日にはお弁当を頼んだり、誕生日にはデリバリーを利用したりと目先を変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量をチェックしており、必要に応じて間食の量を増やしたり、海苔の佃煮やふりかけをかけたたりしている。また、個々に合わせた食事形態や病気に合わせた食事を提供している。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを働きかけている。困難な方は、その方にあった口腔ケア方法で援助している。義歯の方は、夕食後に洗浄と除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、さり気なくお誘いしている。日中はトイレ誘導を心掛けている。特に、朝には排便を促す為にもトイレに座っていただいている。	排泄パターンを把握し、時間をみてトイレ誘導をしている。布パンツを使用している利用者もいる。夜間のみポータブルトイレにしたり、体調に合わせて柔軟に対応している。重度の方にも2人介助でトイレ介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳製品の提供と運動する時間を設けて参加を促している。トイレに座った時にお腹のマッサージを行っている。整腸剤・下剤を服用する方も様子を見ながら適宜調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日を設定しているが、ご本人に確認をしながら実行している。要望により入浴回数を増加したり、足浴や陰部洗浄を行うなどして清潔に努めている。	温泉地にある施設なので温泉を引いている。基本は週2回の入浴であるが、お風呂好きな利用者は回数を多くしている。血流を促すために、入浴日以外の日に温泉の湯で足浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の活動性に配慮し、午睡を実施している。また臥床時間に合わせて室内の温度を調節したり安心して休んでいただけるように声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルやお薬手帳整理して管理している。薬の変更や追加等が分かりやすいように個別ケースに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や特技を生かした役割を持っていただいております。外出・外食時には希望をうかがっている。		

静岡県(グループホーム湯と里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも季節を感じていただけるように外出の計画を立てている。また、外食時には希望を伺い、選ぶ楽しみを感じていただくように支援している。外出が難しい場合は、日向ぼっこをしながら体操を行うようにしている。	施設は幹線道路から入った所なので日向ぼっこで季節を感じられる。幹線道路は交通量が多いので車で近くの公園に出かけ、しばらく滞在している。水族館や花見等季節ごとの外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は鍵付きのロッカーで保管している。必要に応じて、職員が利用者様の要望の品を購入したり、一緒に買い物に出かけたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	問題なく家族からの電話を取り次いだり、手紙を渡したりしている。携帯電話を所持している利用者様もいらっしやるので、充電など必要時は援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アットホームな雰囲気づくりを心掛けている。季節を感じられるような飾りを配置すると、利用者様間でそれについての話をしている様子もうかがえる。清潔感のあるよう掃除をしている。	居間、食堂の目立つ所に季節感のある作品を利用者と職員が合同で制作して、集約して飾ってあり良い雰囲気である。食事中はテレビを消し、BGMIにして食事に集中してもらう。トイレはリビングから見えない所にある。掃除も行き届いていて清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で活動や休養し、リフレッシュしたり、悠々過ごしている様子うかがえる。リビングで利用者様が過ごす時間などには会話をしたり、共同で遊び、交流を図るような空間ができていると思われる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人・家族がセッティングしてくれている。使い慣れたもの、好みのものなど、本人が自分個人の部屋だと感じるような場所になっている。	家で使用していたタンスや椅子が置かれ、タンスの上にはぬいぐるみ、人形等が飾ってある。また、二間続きの部屋もあり、寝室と居間のように分けて使っていたり、床にカーペットを敷いたりと思い思いの部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレなどの認識ができるよう、マークを付け目印にしている。手摺を強化し、安全に移動、運動ができるようになっている。一人ひとりの動作の観察・把握に努め、段差解消や家具の設置に工夫をしている。		